

科目名	情報セキュリティ概論Ⅱ							
科目名(英)								
単位数	5単位		時間数	84時間		担当者	後藤 基介	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	ネットワークセキュリティ科 2年、ネットワークセキュリティ科 アドバンスコース 2年							
授業概要	情報セキュリティの重要性増大により、そのマネジメント推進の人材育成が急務となり、情報セキュリティマネジメント試験が新設された。その趣旨に則った授業であり、当該試験の合格を期す内容となっている。情報システムへの脅威やその対策などセキュリティ技術の概要を学び、関連法規やガイドラインの学習を通して、マネジメントを計画し、運用・継続改善する方策を習得する。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					情報セキュリティの専門用語を説明できる		
	○					情報セキュリティ管理として実施すべきことを説明できる		
	○					情報セキュリティに関する技術的背景を説明できる		
	○					各種法規やガイドラインが求める情報セキュリティ管理の概要を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	情報セキュリティマネジメント合格教本(技術評論社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1-3	情報セキュリティの基礎知識						
	4-6	サイバー攻撃などの脅威						
	7-9	暗号や認証などによる情報保護の技術					第1章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	10-12	情報セキュリティ管理の考え方						
	13-15	各種管理策やシステム監査によるセキュリティ管理					第2章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	16-18	マルウェアや不正アクセスへの対策						
	19-21	情報漏えい対策やアクセス管理の手法					第3章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	22-24	情報セキュリティ関連法規(知的財産や個人情報の保護)						
	25-27	情報セキュリティ関連法規(その他関連法規)					第4章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	28-30	ネットワークとデータベース					第5章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	31-33	システム戦略(可用性や完全性も考慮)とセキュリティ						
	34-36	経営戦略とITマネジメント					第6章を復習して理解しておくこと。小テストで確認。	
	37-39	情報セキュリティマネジメント試験対策(午後問題)						
	40-42	総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを6回実施する。(3)出席状況や授業態度を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎					60%	
	小テスト	○					20%	
	出席状況・授業態度				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	ネットワークⅡA						
科目名(英)							
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科2年						
授業概要	Ciscoのルータやスイッチを使用したネットワークシステムの導入、設定、運用、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				中規模ルーテッド・スイッチド ネットワークの導入、設定を行うことができる	
	○	○				中規模ルーテッド・スイッチド ネットワークの運用、トラブルシューティングを行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 Cisco CCNA Routing & Switching ICND2編 教科書(インプレスジャパン) SKILL-UP TEXT Cisco CCNA/CCENT Routing & Switching 問題集(SB Creative)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	VLAN(トランクポートの設定と検証)				CCENTのVLAN、アクセスポート、トランクポートについて復習すること	
	6-10	STP(概要、基本動作)					
	11-15	STP(ポートの状態、トポロジの設計)					
	16-20	STP(PVST+, STPの設定と検証)					
	21-25	STP(PortFast, BPDUガード, RSTP)					
	26-30	EtherChannel(概要、設定と検証、トラブルシューティング)					
	31-35	レイヤ3冗長化(FHRP概要)					
	36-40	レイヤ3冗長化(HSRP設定と検証)				CCENTのIPv6について復習すること	
	41-45	IPv6の実装(概要)					
	46-50	IPv6の実装(IPv6アクセスリスト)				CCENTのルーティングについて復習すること	
	51-55	EIGRP(ルーティングの基礎、特徴と動作)					
	56-60	EIGRP(基本設定と検証)					
	61-65	EIGRP(オプション設定、トラブルシューティング)					
66-70	EIGRP(IPv6)						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	確認テスト	○	◎				30%
履修上の注意							

科目名	高度ネットワーク I A					
科目名(英)						
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	北原 聡	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース2年					
授業概要	レイヤ2及びレイヤ3スイッチを使用した企業ネットワークの設計・構築と運用管理が出来るようになる					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				スイッチドネットワークの設計ができる
		○	○			スイッチドネットワークの構築ができる
		○	○			スイッチドネットワークの運用管理ができる
テキスト・教材 参考図書	CISCO CCNP SWITCH教科書(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ネットワークにおけるスイッチの役割			CCNA R&Sのイーサネットの箇所を復習すること	
	2-3	スイッチの基本操作、イーサネットの仕組み			CCNA R&SのVLANの箇所を復習すること	
	4-6	VLANとトランクの実装				
	7-8	VTPの実装				
	9-10	イーサネットリンクの集約				
	11-12	DHCPの実装			CCNA R&SのSTPの箇所を復習すること	
	13-15	IEEE802.1D STPの実装				
	16-17	RSTPの実装				
	18-19	PVST+、PVRST+の実装				
	20-21	MSTPの実装				
	22-26	Cisco STP Toolkitによる保護				
	27-28	UDLD、FlexLinkの実装				
	29-30	外部ルータによるVLAN間ルーティング			CCNA R&Sのルーティングの箇所を復習すること	
	31-33	マルチレイヤースwitchの機能、SVI、ルーテッドポート				
	34-37	マルチレイヤースwitchによるネットワーク構築				
	38-39	レイヤ3ポートの集約			CCNA R&Sのネットワーク管理の箇所を復習すること	
	40-41	管理プロトコルの実装 NTP、SNMP、				
	42-43	IP SLAの実装				
	44-45	SPANによるネットワーク管理				
	46	スイッチの仮想化				
	47-48	IP標準プロトコルによるファーストホップの冗長化			CCNA R&SのHSRPの箇所を復習すること	
	49-52	HSRPの実装				
	53-56	VRRPの実装				
	57-58	GLBPの実装				
	59-60	IPv6標準のファーストホップ冗長化				

	61-62	IPv6用HSRPの実装	CCNA R&Sのセキュリティの箇所を復習すること				
	63	エンタープライズネットワークのセキュリティ					
	64-65	MACアドレス攻撃と防御					
	66-67	ストーム制御とAAAの実装					
	68	スプーフィング攻撃と防御					
	69	プライベートVLANの実装					
	70	シミュレータによる実技テスト					
評価方法	(1)授業の中でオンラインテストを10回実施する。(2)実技テストを実施する。(3)出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンラインテスト		◎				30%
	実技テスト		◎	○			40%
	出席状況・授業態度				◎		30%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	サーバ構築演習 I A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科2年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース2年						
授業概要	Linuxによるサーバ構築の手法や運用管理を、演習を通して学習する。あわせて、サーバの動作原理やプロトコルの仕組みも理解する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				DNS、Web、メール、ファイルサーバの動作原理、プロトコルを説明できる	
	○	○				DNS、Web、メール、ファイルサーバの構築ができる	
	○	○				DNS、Web、メール、ファイルサーバの運用管理ができる	
テキスト・教材 参考図書	Linuxサーバー構築標準教科書(LPI-JAPAN)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	環境準備(CentOS7インストール)					
	3-4	初期設定(ネットワーク設定・サービス設定 他)					
	5-6	DNSサーバ(プロトコル理解・BINDインストール)					
	7-8	DNSサーバ(ゾーンファイル記述理解・ゾーン情報設定)					
	9-10	DNSサーバ(スレーブサーバ構築・動作確認・コマンド復習)					
	11-12	DNSサーバ(安定運用・ログ確認)				DNSサーバの設定についてレポートを作成する	
	13-14	Webサーバ(プロトコル理解・Apacheインストール・Userdir・バーチャルホスト設定)					
	15-16	Webサーバ(Basic認証・Webメール・HTTP動作検証)					
	17-18	Webサーバ(安定運用・ログ確認)				Webサーバの設定についてレポートを作成する	
	19-20	メールサーバ(プロトコル理解・Postfixインストール設定)					
	21-22	メールサーバ(Dovecotインストール設定・動作確認・コマンド復習)					
	23-24	メールサーバ(安定運用・ログ確認)				メールサーバの設定についてレポートを作成する	
	25-26	ファイルサーバ(Vsftp、sambaインストール・動作確認)				ファイルサーバの設定についてレポートを作成する	
27-28	総合演習(CentOS7インストール、DNS、Web、メール、ファイルサーバ構築)						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	レポート		◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	Webアプリケーション演習						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ネットワークセキュリティ科 2年、ネットワークセキュリティ科 アドバンスコース 2年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。教科書のサンプルプログラムを実際にも実装し、動作確認しながらPHPの理解を深める。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Webアプリケーション開発環境を構築することができる	
		○				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる	
		○				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる	
		○				セッションを利用したWebアプリケーションを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	イントロダクション、環境構築と動作確認					
	3~4	最初のPHPプログラミング(1)				ロリポップレンタルサーバーのアカウントを作成しておくこと	
	5~6	最初のPHPプログラミング(2)					
	7~8	制御構造とコントロール(1)					
	9~10	制御構造とコントロール(2)					
	11~ 12	関数を使いこなす(1)					
	13~ 14	関数を使いこなす(2)					
	15~ 16	データベースの基本と操作(1)					
	17~ 18	データベースの基本と操作(2)					
	19~ 20	実用的なスクリプト(1)					
	21~ 22	実用的なスクリプト(2)					
	23~ 24	Webアプリケーションとして公開する					
	25~ 26	総合演習					
	27~ 28	総合演習					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				60%
	課題・レポート提出		◎		○		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	徳島 欽子				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	ネットワークセキュリティ科 2年、ネットワークセキュリティ科 アドバンスコース 2年								
授業概要	社会に出て必要となるのが、自分の意見を自分の言葉で表現することである。ビジネスシーンでは、周囲の状況を的確に判断し、現状に基づいた建設的な意見が求められる。グループの中で、論理的に自分の意見を主張し、他の人の意見もしっかり聴いて、グループの意見をまとめてプレゼンできる能力を身につける。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○				ワークショップのやり方を学び、グループの中で言葉で意見を主張できる。			
	○	○				各プレゼンテーションツールについて学び、選択する際のメリット・デメリットを説明することができる。			
				○		コミュニケーションの仕方から論理的な話し方を学び、ディベートで自分の意見を発言できる。			
テキスト・教材 参考図書	プレゼンテーション技法(株式会社 ウィネット)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	ワークショップについて				第1章p5～p7まで読んでおくこと			
	2	ワークショップのやり方				第1章p8～p12まで読んでおくこと			
	3	自分の意見を主張する							
	4	友達へのフィードバックの仕方				第1章p13～p15まで読み、フィードバックの仕方と受ける時の心構えを理解しておくこと			
	5	コミュニケーションの基礎知識							
	6	コミュニケーションの基礎知識～ディベート				第2章p21～p23・第6章p118～p120まで読み、ディベートの仕方を理解しておくこと			
	7	意思決定とリーダーシップについて(チームワークを考える)				第2章p25～p34まで読み、リーダーシップとチームワークのことについて考えておくこと			
	8	プレゼンテーションツールについて、考えたことを発表する				第4章p54～70まで読み、プレゼンテーションツールについて考えておくこと			
	9	論理的に発表する練習							
	10	企画書を使ってプレゼンテーションする際にきをつけること				第4章p70～p80まで読み、プレゼンテーションする際に気をつけることを考えておくこと			
	11	企画書を作成する(グループ毎に考える)				企画した内容について、担当を決めて企画書を作成すること(PCを使って、プリント作成可)			
	12	作成した企画書を担当別にプレゼン(発表)する							
	13	作成した企画書を担当別にプレゼン(発表)する							
	14	論理的構築のための情報収集と論理的表現方法・前期復習p				第6章p104～p108を読み、論理的思考の大切さを考えておくこと			
評価方法	(1)授業の中でプレゼンを数回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎				60%		
	宿題・レポート		○				10%		
	発表・作品		○		○		20%		
	出席状況・授業態度				◎		10%		
履修上の注意	自分の意見をグループの中で、論理的に主張できるよう心がけること。(感情的にならないよう、気をつけること)								

科目名	一般教養ⅡA					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添 正和	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	ネットワークセキュリティ科 2年、ネットワークセキュリティ科 アドバンスコース 2年					
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒ 求めた答えと一致する「選択肢」を選択する。SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について数学分野(1回目)				
	2	数学分野(2回目)				
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①)テキストの数学1の内容確認・練習問題				
	4	国語2(二語の関係②)数学分野(3回目)			前期 数学分野の進行順序 数学1. 仕事算 数学1-1. 水槽算 数学2. 鶴亀算 数学2-1. 連立方程式の練習問題 数学 その他1. 濃度算 数学3. 損益算 数学4. 速さ・時間・距離 数学4-1. 通過算 数学4-2. 流水算 数学19. 参考問題 その他2. 年齢算 数学5. 場合の数 数学6. 確率 (数学7~18は、後期に実施します)	
	5	国語3(文法)数学分野(4回目)				
	6	国語4(語句の意味)数学分野(5回目)				
	7	小テスト(数学1. ~ 数学4-2)				
	8	小テスト 返却&解説国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)				
	9	国語6(文章整序)数学分野(7回目)				
	10	国語7(空欄補充)数学分野(8回目)				
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題)数学分野(9回目)				
	12	数学分野(10回目)				
	13	数学分野(11回目)				
	14	数学分野(12回目) 定期試験対策				
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	小テスト	◎	◎			
	出席状況・授業態度				◎	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位を付与しない。					

科目名	就職実務 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ネットワークセキュリティ科 2年、ネットワークセキュリティ科 アドバンスコース 2年						
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					IT業界の特徴を説明できる	
	○	○				業界と職種の志望理由を述べることができる	
		○				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解					
	2	業界研究1					
	3	業界研究2(東京研修 事前研究)				Interop2019の参加登録(ユーザ登録)をすること	
	4	業界研究3(東京研修 事前研究)					
	5	業界研究4(東京研修 事前研究)					
	6	職種研究1(東京研修 事前研究)					
	7	職種研究2(東京研修 報告書作成)				東京研修で訪問する企業について調べてレポートを作成すること	
	8	職種研究3				「東京研修の訪問企業」の講義内容についてレポートを作成すること	
	9	業界・職種志望動機まとめ1					
	10	業界・職種志望動機まとめ2				「業界の志望動機」「職種の志望動機」のレポートを作成すること	
	11	企業研究1					
	12	企業研究2					
	13	履歴書作成1					
14	履歴書作成2				「履歴書の下書き」についてのレポートを作成すること		
評価方法	(1)レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎	○				50%
	出席状況・授業態度				◎		50%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科2年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース2年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		考えることの大切さを知る	
		○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る	
		○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る	
				○		行動する大切さに気づく	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	2	なぜ志を立てることが大切なのか			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	3	自己を知る			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	4	伝える力を学ぶ(1)			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	5	伝える力を学ぶ(2)			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	7	自己の大切さと責任を自覚する			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと			教科書の該当範囲を事前に読む、振り返りレポート		
評価方法	(1)レポートを適宜実施する (2)授業態度 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○		◎		80%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							